









標準型のカリキュラム〈学習の内容・目標と評価の観点〉

第6学年



第5・6学年①

◎めあて

-  心を開いて友達のことを知り、材料体験をする
-  試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する
-  形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点 	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・16時間	4～6時間 教科書8・9ページ	表現 (2) 	 感じたことを大切に、花をかくことをたのしむ	※感じたままに花	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料体験をする題材である。</p> <p>ここでは、見たものや想像したものの形や色、印象をもとに、自分なりのかき方で線や形をかき、絵に表すたのしさを感じ取り、心地よさを味わう内容である。</p> <p>見たり想像したりした花を自分の好きな色の絵の具をたっぷり使ってかき、気に入った形や色の組み合わせ、情景などを見つねながら表す。</p>	<p>関：花の形や色を自分なりにとらえ、絵に表すことをたのしむ。</p> <p>発：画面の組み立て方や配色をかきながら考えたり、試みたりする。</p> <p>創：描画材料の扱い方を工夫し、その効果を確かめながらかく。</p> <p>鑑：友達の作品を見て、そのよさや美しさ、おもしろさを感じ取る。</p> <p>【共】身近な花を自分の感覚で見たり、感じたりすることを通して、形や色、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師：画用紙、色画用紙、絵の具、コンテ定着液</p> <p>児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、コンテ</p>	<p>花をモチーフとして、自分が感じたことを表す題材である。</p> <p>低学年では「えのぐじま」、中学年では「しょうかいします、わたしのだいすき」などの系列の題材である。</p> <p>見たままに再現的に描くことなく、自分が感じる形や色で、これまでに学習した技法などを生かして絵に表す。再現的でも、抽象的でも、デザイン的でもよいが、高学年としての感性を生かした自由な色使い、筆使いができるように指導したい。</p> <p>自分で見つけた形や色、筆使い、表し方が中学校美術へとつながっていく。</p>
	4～6時間 教科書10・11ページ	表現 (2) 	 身近な気に入った場所を見つけて、表し方をくふうしてかく	※わたしのお気に入りの場所	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、五感を働かせて、自分でお気に入りの場所を見つけ、簡単なスケッチや感じたことや見つけたことを言葉でメモするなどして、表したいことへの思いを深め、構想を練ることをたのしみながら絵に表す内容である。</p> <p>表したいことがよりはっきりと表現できるように、構図や描画材料、形や色の表し方などを自分らしく工夫してかく。</p>	<p>関：自分が感じたことを大切にしながら、お気に入りの場所をかくたのしさを味わう。</p> <p>発：目に見えるものだけでなく、体全体で感じたことからイメージを広げて、形や色でどう表すかを考える。</p> <p>創：感じたことや表したいことをもとに描画材料を選んで、自分なりの表し方で工夫してかく。</p> <p>鑑：友達の作品から感じるよさやおもしろさなどを味わい、思ったことを言葉などで伝える。</p> <p>【共】自分のお気に入りの身近な場所を見つけ、その場所の形や色などの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師：画用紙（色画用紙）</p> <p>児童：水彩用具一式、クレヨン、パス、コンテ、カラーペンなど</p>	<p>風景をモチーフとした題材である。</p> <p>観察や経験にかかわる系列の題材で、低学年では、「えがおつうしん」「どうぶつさんとわたし」、中学年では「わたしの休み時間」「木々を見つめて」の系列の題材である。</p> <p>高学年の絵画題材「感じたままに花」が、形や色などを発想の基本としているが、この題材では、観察や経験から発想させたい。高学年らしい観察力を生かし、再現的な表現や画面構成なども指導したいが、単なる写生画ではないことに留意したい。</p> <p>思いを込めた風景画は、中学校美術へとつながっていく。</p>

1学期・16時間	2時間 教科書12・13ページ	表現(2) 立	 ねん土のかたまりや板を切り取り、その形を生かして立体をつくる	切ったねん土の切り口から	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、粘土を塊からテグスなどで切り分けたり、板状のものから切り針で切り起こしたりして、変化に富んだ断面の形状や自由に形成できる特性などを味わいながら、構成したり、分断したりなどを試しながら、立体に表す内容である。 また、でき上がったものを乾燥させ、素焼きや本焼きにするなど発展的に扱うことも考えられる。	関：粘土を切ることをたのしみ、そこから生まれた形を生かして表現する。 発：粘土を切り起こしたり、切り取って組み合わせたりしながら、自分が表現したいことを構想する。 創：切り方や組み合わせ方を工夫し、効果的に表す。 鑑：自分や友達の表し方に関心をもって、互いに認め合う。 【共】 粘土の可塑性を生かす活動を通して、形や動き、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したい立体のイメージをもつ。	教師：粘土（一人1.5～2 kg）、切り針、テグス、粘土板、粘土べら 児童：タオル	低学年から扱ってきた土粘土の最終題材である。 5・6上では、心象を大切にしたい形を表したが、ここでは、粘土を操作するなかで、出てきた形から発想することを大切にしている。 このような上・下巻の題材内容の違いを経験することで、中学校美術の彫刻や抽象立体表現につながっていく。 技法的には、たたらを使った板づくりなど、中学校美術の工芸へもつながっていく。
	6～8時間 教科書14・15ページ	表現(2) 工	 木材を組み立てて、「組み木パズル」をつくる	※強くてやさしい組み木パズル	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、「かきつぎ（切りこみを入れて組む）」や「だぼ（丸棒を使って固定する）」を使って板材を中心に立体的な表現をする内容である。 これらの構築の技法を学び、構造的に立体が強度をもつことを体感する。いつでも形を組み替えられることをたのしみながら、「かきつぎ」による可動部分を生かして「動くオブジェ」として表すこともできる。 木材のよさを味わえるよう、やすりなどで丁寧に仕上げたい。着色（塗装）する場合も、木目や質感を大切にしたい方法で行いたい。	関：板材を組んで立体に表現することに関心をもつ。 発：切った板や木材を組み合わせ、美しさなどを考えながら自分らしい発想をもつ。 創：丈夫な組み立て方や木のよさを表す方法など、工夫して立体をつくる。 鑑：自分や友達の作品のよさや工夫に気づき、認め合う。 【共】 切った板や木材を組み立てる活動を通して、形や色のよさ、立体的な迫力や動きのおもしろさなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師：電動糸のこぎり、替刃、工作用紙、チョーク、やすり、紙やすり ※修理用：木工用接着剤、間伐材テープ、波くぎ ※「だぼ」用：ハンドドリル、だぼ ※着色が必要な場合：ポアステイン（アクリル系は厚さが変わるので注意） 児童：はさみ	木材を主材料とする工作である。 木材を使った木工工作としては、中学年の「つくって、つかって、たのしんで」の系列であり、電動糸のこぎりを使って、曲線切りした板材を生かす内容は、5・6上で体験した「糸のこのドライブ」の系列になる題材である。 「かきつぎ」「だぼ」を生かしたこの体験が、中学校技術へとつながっていく。
	6～8時間 教科書16・17ページ	表現(2) 工	 かんたんなくみを使って、動くおもちゃをつくる	※動き出すストーリー	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、いろいろな動く仕組みのおもしろさを感じ取り、動き方からイメージを広げてつくりたいものを発想してつくる内容である。なかでも「リンク機構」「クランク機構」のもつ規則正しい動きをはじめとして、小さな力（力点）が大きな動き（作用点）となって伝わるたのしさと、支点を少しずつずらすと思いがなかった動きに変化することへの驚きなどを発想に広げていく力を育てたい。	関：動く仕組みをもとに、つくりたいものを探したり、工夫したりしてつくる。 発：動く様子からイメージを広げ、つくりたいものを思いついたり、つくり方を考えたりする。 創：つくりたいものの動きに合った材料を選んだり、部品を固定する方法を工夫したりする。 鑑：互いの作品を見合い、動きのおもしろさや工夫のよさに気づき、共感する。 【共】 動くしくみの、その動きなどの特徴をとらえて、動きを生かすおもちゃの形や色を思いつき、自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師：造形紙、色画用紙、はと目パンチ、はと目、割りピン、和紙、ストロー、竹ひご、輪ゴム、たこ糸 児童：はさみ、接着剤、定規、セロハンテープ	仕組みを生かした工作の系列の題材で、低学年では転がる仕組みを、中学年では、ペットボトルや牛乳パックを使って動く仕組みを、5・6上では針金を使ったクランクの仕組みを学習してきた。 ここでは、新たなリンクの仕組みを、はと目や竹ひごなどを使って学習する。動きを生かすおもちゃの形態を発想したり、動き自体の工夫をしたりすることが、中学校美術や技術へとつながっていく。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・16時間	2～4時間 教科書 20・21ページ	表現(2) 絵	 墨や筆、和紙の特ちょうを知って、かくことをたのしむ	墨のうた	☆心を開いて友達のことを知り、材料体験をする題材である。 ここでは、筆や刷毛、身のまわりの材料を筆代わりにするなどしていろいろな試みに加え、墨の濃淡、色合い、香り、にじみ、かすれ、たれ、はねなど、かかれたもののよさや美しさ、快さなどを感じ取って表す内容である。	関: 墨を使つてのいろいろな表し方に関心を高める。 発: 画面の組み立て方や配色をかきながら考えたり、試みたりする。 創: 墨や筆の扱い方を工夫し、その効果を確認しながらかく。 鑑: 友達の作品を見て、そのよさや美しさを感じ取る。 [共] 墨や筆、和紙の特徴を生かした活動を通して、墨や紙の形や色、筆の動きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。	教師: 和紙(半紙、障子紙、奉書紙などで、礬砂引きを施していないもの)、刷毛、墨汁、染料 児童: 筆、たわし、枯れ草など筆代わりになる身近材料、新聞紙	墨を使つて和紙に表す題材で、初めて描画材料としての墨に出会う。 これまで絵の具と筆で表現してきた経験をもとに、様々な用具を筆のようにして使うだけでなく、和紙に墨がにじんだり、かすれたりすることを味わう内容である。 墨や筆の特徴、和紙に描いたときの効果などを経験することで、中学校美術の水墨画の学習につながっていく。
	2～4時間 教科書 22・23ページ	鑑賞	 写した写真を通して、さまざまなものの見方を発見し、発表し合う	瞬間コレクション	☆心を開いて友達のことを知り、材料体験をする題材である。 ここでは、デジタルカメラで「びっくり」「不思議」「すてき」などのキーワードをもとに発見した「瞬間(場面や被写体)」を撮影する活動を通して、身近なものを新しい見方で見つめ直す内容である。 普段気づかなかった自然物や人工物がもつ造形や動きのおもしろさを発見する視点から出発し、さらにイメージを広げて自らその「瞬間」をつくり出す視点(例: 遠近感による錯視)へと活動が展開することを期待したい。	関: ものの新しい見方を発見したり、自らおもしろい見え方をつくり出したりすることをたのしむ。 発: 写り方を予想したり、写ったものから想像を広げたりしながら、自分なりの見方を考える。 創: デジタルカメラのもつ長所や短所を生かして、新しい撮り方や見方を工夫する。 鑑: みんなで集めた「瞬間」を見合い、見方のよさやおもしろさを感じ取る。 [共] デジタルカメラで撮影する活動を通して、身近にある形や色のよさ、動きや奥行きによる見え方のおもしろさを感じ取り、これをもとに自分のイメージを広げる。	教師: デジタルカメラ(約2～5人に1台)、印刷及び投影の可能 PC 環境(PC・プリンタ・プロジェクタ) 児童: はさみ、のり	デジタルカメラを使った鑑賞活動は、高学年で初めて取り組む。構図の工夫やものの見方、見え方、見立てなどをたのしむ内容である。 中学年で取り組んだ絵画題材での構図のとり方や、5・6上の「そのばくん、登場」で、体験した見立て遊びなど、これまでに体験・習得した様々な学びが活用されている。 デジタルカメラを使ったこの活動は、中学校美術の映像メディアにつながっている。

2学期・20時間	4～6時間 教科書 24・25 ページ	表現 (2) 絵	 「窓」をきっかけに、想像したことをくふうしてかく	※「窓」のむこうには…	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、「窓」からイメージを広げて、想像した世界を絵に表していく内容である。</p> <p>「窓」というと、身近な部屋の窓を思い浮かべるかもしれないし、内と外といった、いわば二つの世界を隔てるしかけとして考えることもできるだろう。</p> <p>「窓」をのぞいたら、そこにはどんな世界が広がっているのだろう、といった提案から自由に想像を広げ、自分の思い描いた世界を好きな表現方法を選んで、たのしみながら絵に表していくようにする。</p>	<p>関:「窓」からイメージを広げ、想像した世界を絵に表すことをたのしむ。</p> <p>発:「窓」からイメージを広げ、テーマや画面の組み立てなど、表現の構想を練る。</p> <p>創:自分の想像した世界が効果的に表れるように、描画材料の扱いや表現方法を工夫する。</p> <p>鑑:テーマや表し方のよさに関心をもって、お互いの作品を見合う。</p> <p>[共] 窓や、その向こうに広がる世界の形や色、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに表してみたい絵のイメージをもつ。</p>	<p>教師:画用紙</p> <p>児童:水彩用具一式、色鉛筆やコンテなどの描画材料</p>	<p>言葉を発想や想像のきっかけにして描く想像画の系列の題材である。</p> <p>中学年では、「ふしぎなりのもの」「まほうの力をもつ時計」などを体験してきている。</p> <p>ここでは、「窓」をきっかけに発想し、窓の中や外に別の世界を展開するという高度な内容になっている。</p> <p>想像や発想を十分に広げて構想するこうした活動は、中学校美術の想像画、空想画へとつながる。</p>
	4～6時間 教科書 26・27 ページ	表現 (2) 絵(版)	 ステレンボードの持ちようを生かして、いろいろな方法をくふうして版に表す	※うつつで見つけたわたしの世界	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、ステレンボードの特徴を生かして、身近な材料の型押しやボードの分解・再構成などをして版をつくり、絵(版)に表す内容である。</p> <p>彫り進み版画の技法、インクの混色・重色の効果を利用したり、ローラーの使い方を工夫したりしながら、試行錯誤を通して自分なりの主題を効果的に表現していく。いろいろな方法を試したり考えたりしながら、版に表し、自分や友達の作品のよさや美しさを感じ取らせたい。</p>	<p>関:これまでの経験をもとに、材料の特徴を生かして版づくりや刷りをたのしむ。</p> <p>発:写り方を予想したり、写ったものから想像を広げたりしながら、自分なりの主題を見つける。</p> <p>創:材料の特徴を生かして版づくりや刷りの工夫をする。</p> <p>鑑:自分や友達の表現のよさや工夫を感じ取る。</p> <p>[共] ステレンボード版画の製作を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師:ステレンボード、版画用具一式、ばれん、版画用和紙、版画インク、カッターナイフ、カッターマット</p> <p>児童:古新聞紙、フオークやキャップなどの模様をつける身近な材料</p>	<p>小学校の6年間で体験してきた版表現の集大成である。</p> <p>扱いが容易なステレンボードを使って、彫り進み版画、型紙版画、パズル版画など、あらゆる版の可能性を追求することができる。</p> <p>刷る技術の集大成としても、色の組み合わせや重ね塗り、グラデーションによる刷りなど、習得してきた技術を活用して表現することができる。</p> <p>こうした版の可能性を知る活動が、中学校美術のコラグラフやモノプリント、一般多色などの版表現につながる。</p>

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・20時間	4～6時間 教科書 28 ページ	表現 (2) Ⅰ	 布や枝の持ちようを生かして、かざるものをつくる	布と枝のコンサート	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、布や枝などの特徴を感じながら、いろいろに試す活動をする中で、イメージを広げて表したいこと形にする内容である。</p> <p>まず、材料に親しみ、特徴に気づくことが大切になる。布は柔らかく広がりをもつことから、巻いたり張ったり包んだりできる。裂けばひものようにもなる。枝は硬く長さがあるので、杵や芯などの構造体になる。</p> <p>枝と枝の間に布を張ることで面を見つけたり、枝分かれのところに着目して布を巻いたりなど、思いついたことを試し、その過程で発想したことを表現する。</p>	<p>関：布や枝の特徴に関心をもち、いろいろと試しながら表すことをたのしむ。</p> <p>発：材料の可能性をいろいろに試しながら発想を広げ、表したい形などを構想する。</p> <p>創：布や枝のよさや美しさ、おもしろさなど特徴を生かして、使い方や組み合わせ方など工夫して表す。</p> <p>鑑：友達の作品のよさや表し方の工夫などに気づき、感じ取る。</p> <p>【共】 布と枝を組み合わせる活動を通して、布や枝の形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分のつくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師：ペンチ、針金、ひも、毛糸、端布、接着剤、枝木、つる、竹</p> <p>児童：端布、不要になった布製品、ひも、毛糸、枝木</p>	<p>自然材料の枝を使って、ひもでつなぎ、それに布を巻きつけて表現する題材である。</p> <p>中学年の造形遊び「みんなでどんどん、むすんでつないで」で習得した枝をつなぐ技術を活用する。つないだ枝に、様々な色の布や色糸を巻きつけ、構成的な美をつくる、高学年らしい高度な内容である。</p> <p>枝をつなぐ技術と、布や色糸で包んだり、巻きつけたりして美しい形を創造するという感性が必要となる。</p> <p>この経験をもとに中学校美術の工芸へとつながっていく。</p>
	2時間 教科書 29 ページ	表現 (1) Ⅱ	 光やかげの美しさを見つけて、くふうして思いついた活動をする	おどる光、遊ぶかげ	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、身近にある光や影の魅力を見つけ、あらゆる環境とかかわりながら表現していく内容である。これまでの経験を総合的に生かして活動を展開していくことが大切である。</p> <p>自然光や光源により生み出された光や影のよさを見つけ、身近材料を使いながら、さらにおもしろく見えるように表現する活動をたのしんでいく。</p>	<p>関：光や影のいろいろな特徴を感じ取り、自分が納得できるように表す。</p> <p>発：光と影の形や色から表したい表現を思いつき、そのためのしかけのつくり方を考えるなど、思いをめぐらせる。</p> <p>創：光と影の組み合わせや形と色のおもしろさなどを生かす表現を試みながら、材料を効果的に使い、光や影の姿を表す工夫をする。</p> <p>鑑：光や影の美しさを見つけたら、感じたりしながら、自分や友達の表現の違いやよさを味わう。</p> <p>【共】 身近な場所や環境で、光や影を見つけようとする試行を通して、形や色、動きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分でしたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：懐中電灯、OHP、様々な光源、色セロハン、ペットボトルなどの透明な容器、鏡、各種接着剤、テープ類、身近材料など</p>	<p>光や明かりをもとに、そのよさを生かして活動する題材である。</p> <p>光と影の美しさに気づいたり、それをさらに美しく見せる工夫をしたり、高学年らしい工夫が要求される題材である。</p> <p>自然の現象を目に見える形としてとらえる活動は、5・6上で「流れる風をつかまえて」があるが、その系統の題材である。</p> <p>目に見えないものをとらえて可視化するこの体験が、中学校美術の鑑賞へとつながっていく。</p>

2学期・20時間	2時間 教科書 30 ページ	表現 (2) 絵	 <p>「自分マーク」をもとに見方を変えたり、考え方を広げたりしてかく</p>	<p>いろいろな見方で！</p> <p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、自分マークをいろいろな方向（前後、左右、上下など。4画面程度）から見たところを想像し、小さな画用紙（32 切り）に鉛筆でかく。次に、自分マークの成長の過程（幼児、児童、青年、壮年、老年など。4画面程度）を想像してかく。</p> <p>画用紙（16 切り）を八つの画面にバランスを考えて仕切る。この画用紙の同一画面上に、かいた8種の絵を参考に、それぞれの部分を取り出し、バランスよくかいていく。</p> <p>八つの画面を扇子の蛇腹のような同一画面上にかく感じである。いわゆる「キュビズム」の考え方の一例である。</p>	<p>関：多視点からとらえたものごとを同一画面上にかく可能性とそのたのしさやおもしろさに興味や関心をもつ。</p> <p>発：八つの視点からとらえた八つの画面を同一画面上に組み合わせる表現を思いつく。</p> <p>創：八つの画面をバランスよく、効果的に組み合わせたかき方を工夫する。</p> <p>鑑：「自分マーク」を多様な視点からとらえ、同一画面上に組み合わせてかく表現の特徴やよさ、一般的な絵画表現との違いなどに気づく。</p> <p>【共】 自分の感覚や活動を通し、自分マークの形や色、奥行きなどの造形的な特徴を多様な視点からとらえ、それらを組み合わせたり画面を構成したりするなど、造形的なイメージをふくらませる。</p>	<p>教師：小さな画用紙（32 切り、27×39cm）8枚、16 切り画用紙1枚</p> <p>児童：鉛筆（2B程度）</p>	<p>「自分マーク」をもとに、それをいろいろな方向から見たり、時間の経過を考えたりしながら、見方を変えたり、考え方を広げたりしていく題材である。</p> <p>発想する力、構想する力を培う題材であり、このように対象のモチーフを様々な方向から見て描くという体験は、中学校美術の絵画、彫刻、デザインの分野それぞれの基礎になっていく。</p>
	4時間 教科書 31 ページ	表現 (2) 絵	 <p>形と色を組み合わせ、はり絵に表す</p>	<p>はさみと紙のハーモニー</p> <p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、身のまわりにある紙をはさみで好きな形に切る快さを味わう。それを画用紙に並べたり、組み合わせたりしながら自由に発想を広げ、その形や色を生かして構成を工夫することをたのしみながら表現する内容である。</p>	<p>関：自由に紙を切ることをたのしみ、形や色の組み合わせに関心をもつ。</p> <p>発：生まれた形や色から自分らしい発想を広げる。</p> <p>創：切り方や、形や色の組み合わせを工夫することから自分のテーマを明らかにしながら表す。</p> <p>鑑：自分や友達の表現のよさや工夫に気づき、認め合う。</p> <p>【共】 紙を自由に切り、切った紙を組み合わせる活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したい貼り絵のイメージをもつ。</p>	<p>教師：各種の紙、画用紙、色画用紙</p> <p>児童：はさみ、のり、各種の紙、絵の具遊びでつくった紙（3・4下 p8・9の『絵の具で遊んで「自分いろいろがみ」』参照）</p>	<p>デザイン・装飾的な表現の系列の題材である。</p> <p>低学年では「つたえよう、わたしのすきなかたち・いろ」、中学年では「ようこそ、キラキラの世界へ」とつながってきている。また、技法としてはデザインの的なコラージュであり、低学年の「はるはるおはながみのえ」の流れでもある。これまでに様々な紙などの貼り方、形や色の組み合わせ方を工夫して表している。</p> <p>中学校美術では、デザイン、絵画などにこの体験がつながっていく。</p>

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
3学期・14時間	2時間 教科書 32 ページ	表現 (1) 	 集めた材料や場所の持ちようを考えながら思いついた活動をくふうする	白い物語	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、身のまわりの白い材料を集め、白さや手触りの違いを味わいながら、思いついた活動をする内容である。</p> <p>生活の中から白い色に注目して材料を集めることから始める。集まった白い材料の違いやよさ、または「白い色」に感じる特徴などを話し合いながら、たのしいことができそうな場所を選んで活動する。</p> <p>「白いもの」を置いたり、つなげたり、重ねたりすること、白いものどうしを透かしてみたりすること、または光や影、明るさや暗さ、広さや奥行き、風や雰囲気など、場所の特徴を生かすことなどをもとに思いついたことを試していく。</p>	<p>関：身近なものの「白い色」に関心をもったのしむ。</p> <p>発：材料の形、手触りによる白さの違いを感じて思いを広げる。</p> <p>創：材料の組み合わせや場所の特徴を生かす工夫をする。</p> <p>鑑：互いの感じ方や活動のしかたを認め合う。</p> <p>【共】 身近な白い材料を使って、その場所や環境に合った活動を試行して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分でしたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：材料を貼り合わせたり、連結したりする用具（白色のテープ、ひも、白い洗濯ばさみやクリップなど）</p> <p>児童：白い身辺材、はさみ、ホチキス、大きな紙袋（材料持参用の袋を片付けるときの袋としても活用する）</p>	<p>加工材料による造形遊び題材である。</p> <p>布を扱った造形遊びでは、低学年でタオルなどの柔らかい布を材料として体験をしているが、この題材では、材料は様々だが、色は白と限定し、それぞれの材料や場所の特徴を考えて活動するという高度な内容になっている。</p> <p>中学校美術では、インスタレーションなどの現代アートにつながる活動である。</p>
	4～6時間 教科書 33 ページ	表現 (2) 	 液体ねん土の持ちようを生かして、思いついた白い世界をくふうしてつくる	白の世界	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、軽さや耐久性に優れ、造形的な可能性も高いと言える軽量紙粘土や液体粘土などを使い、思いのままに形ができるたのしさを味わいながら、自分の想像の世界を広げていく内容である。</p> <p>身辺材を含め、すべて白に同化させることにより質感も同質化され、形状だけが抽出され、物の形に対する見方が培われる。</p>	<p>関：材料に関心をもち、表現する意欲をもつ。</p> <p>発：自分のつくりたい世界やものを想像し、材料の特徴を生かしながらつくる。</p> <p>創：材料の特性に気づき、試しながら工夫してつくる。</p> <p>鑑：自分や友達の発想、工夫したところを認め合う。</p> <p>【共】 身辺材を液体粘土で固めて立体に表す活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師：軽量紙粘土、液体粘土、白い塗料、土台となるもの（板材や段ボール）</p> <p>児童：布や身辺材料</p>	<p>雑材による立体題材である。</p> <p>低学年では紙箱を生かした立体、中学年では、布や紙粘土による立体、5・6上では針金による立体の体験を積み重ねてきている。液体粘土で固めるという技法は、5・6上の絵画題材で「でこぼこ広場に絵の具が走る」で体験している。</p> <p>ここではそれらの体験を総合的に活用し、白の美しさを生かした立体に表す内容である。白だけで自分の世界を表すことは高学年らしい高度な内容となっている。</p> <p>この体験は、中学校美術での情景彫刻や抽象彫刻につながっていく。</p>

3学期・14時間	6～8時間 教科書 34・35 ページ	表現 (2) Ⅰ	 板や角材をもとに、使ったのしい 入れ物をつくる	※わたしはデザイナー 12さいの力で	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、板材や角材をもとに、何かを入れて使ったのしむものをつくる内容である。 誰が、いつ使うのか、どんな材料、どんな方法でつくるのか構想を練ったり、ふたが開くしくみを考えたりするなど、つくりたい思いを十分にふくらませてつくる。その際、必要に応じて、アイデアスケッチを取り入れることも考えられる。 電動系のこぎりなど、これまでに使った用具の経験を生かし、その扱いを確かめながら自分の活動に生かす。	関: 材料や用具を選び、自分の思いに合わせて、使ったのしむものをつくることに意欲をもって取り組む。 発: 材料の特徴やつくりたいものの大きさ、形などから見通しをもったつくり方を考え、構想を練る。 創: 形や色の美しさやおもしろさ、用途を考えて自分なりの工夫をする。 鑑: 友達と自分の発想や表し方の違いに気づき、互いのよさを認め合う。 【共】 板材や角材を使って入れ物を製作する活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師: 板材(シナベニヤ合板、杉の間伐材など)、角材、木の枝、木工用具(のこぎり、電動系のこぎり)、紙やすり、接着剤、蝶番などの木工金具 児童: 自分の表現に必要な身近材料	小学校の木工作としては最後の題材になる。 板材から、自分の表したい、使えるものをつくるという工作題材である。6年間に学んできた板材の扱い、のこぎりでの切断、くぎや接着剤による接着、着色など、あらゆる力を総合的に活用して製作することになる。 製作を通して、工作に必要な力を十分に活用・習得することが、中学校美術の工芸への力となつてつながっていく。
	6～8時間 教科書 36・37 ページ	表現 (2) Ⅰ	 材料やつくり方をくふうして、伝え合いたいことを みんなでつくって発表し合う	※伝え方をたのしもう	☆心を開いて友達のことを知り、材料体験をする題材である。 ここでは、文字や言葉では表せない思い出や将来などを伝える方法をグループで話し合っ計画し、他の学年や友達に発表し、ともにたのしむ内容である。 「だれに、何を、どんなふうに」伝えるか、また、どのような伝え方をすれば伝える相手にたのしんでもらえるかななどを考えていく。伝えたいことを見つかるだけでなく、伝える相手を想像したり、伝え方のおもしろさを工夫したりすることを小グループや学級・学年全体でたのしむことを大切にする。 ただ見せるだけの作品づくりではなく、一緒にかかわり合って、たのしく体験できる方法や伝え方について、遊び心あふれたアイデアを生かす。	関: 伝えるたのしさに関心をもって取り組む。 発: 伝える相手を考えながら、伝える内容や方法を見通し、計画する。 創: 伝えたい相手や内容に合った材料や用具を選び、伝え方を工夫する。 鑑: 互いの伝え方の違いやよさを認め合い、伝え方をたのしむ。 【共】 グループで考えて創造する活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分たちの伝えたいことのイメージをもつ。	教師: 児童の計画を理解しながら支援する資料。児童の求めによって適宜用意する。他学年や地域との連携する連絡経路の確保など。 児童: 伝えたい内容や伝え方に応じて話し合って準備や計画を進める。	総合的なかかわり合いを内容とする題材である。 低学年・中学年で共同して活動し、発表してきた題材内容の系列である。 グループで相談しながら、自分たちの発想力、構想力、製作の力を最大限に活用して、共同作品並びにイベントそれ自体をつくっていく題材である。高度な内容であるが、高学年らしいひらめきやユーモア、たのしい造形物などが生み出される。 こうした活動が、中学校美術での空間デザインやイベントのデザインなどにつながっていく。

頁	指導 要領	題材名	学習の内容	主な材料・用具
教科書 2 ～ 4 ページ	鑑賞	小さな美術館	巻頭の「小さな美術館」では、各学年の子どもたちの興味・関心にあわせた作品を掲載するだけでなく、それぞれの作品について鑑賞の観点のうちの一つを吹き出しで入れた。また、1ページ大で扱う作家作品を必ず取り上げ、教室での鑑賞資料として十分に対応できるようにした。 ここでは、「広がる想像～風を見る～」というサブタイトルで、風神雷神図屏風をはじめ、風を表した作品を取り上げている。	
教科書 6 ～ 7 ページ	鑑賞	ゆめをかたちに	子どもたちがその学年で出会う材料や表現方法を使っている作家の作品と子どもたちへのメッセージである。 ここでは、現代美術作家のヤノベケンジさんに登場していただき、「未来をつくる」というタイトルで、ヤノベさんの作品とともにわかりやすい文章で子どもたちに伝えてもらった。	
教科書 18 ・ 19 ページ	表現 (2) [工]	ひらめきコーナー	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動である。 ここでは、厚紙の特徴を生かした工作や動くおもちゃを提案している。また、紙コップやガムの包み紙、広告のチラシを使った工作も紹介している。	教師：色画用紙、色厚紙、黄ボール紙、ミラーシート、紙コップ、化学接着剤など 児童：色紙、はさみ、カッターナイフ、広告のチラシ、接着剤など
教科書 38 ～ 40 ページ	鑑賞	みんなのギャラリー	暮らしを豊かでたのしいものにするために造形が果たす役割は大きい。そのために、子どもたちに関心がもてそうな行事や祭り、イベントなどを紹介している。 ここでは、「みんなでいっしょに」「伝統の技を学ぶ」「教室をとびだして」「日本の祭り」の四つのテーマでくくっている。	
教科書 41 ～ 43 ページ	表現 (2) [絵] [工]	パレットコーナー 道具箱	道具は、造形活動においては、材料とともになくてはならないものである。子どもたちも自らの思いを実現させるために、道具の正しく合理的な使い方を知ることは大切なことである。そのための手引きのページである。ここでは、やすりの使い方、ちょうつがいや塗装のしかたについて掲載した。工作をするときに活躍する道具であるが、いろいろな学習や活動の場面で使われるので、繰り返し活用し、思い通りに扱えるようにしたい。また、「気をつけて！」のコーナーを設け、安全面にも配慮した。 「ざいりょうはたからもの」では、材料を集める一つの視点として、「思い出のものを集めておこう」を提案している。 また、「パレットコーナー」では、身近な形や色に注目させたいという内容で、街でよく見かける形や色について示している。	

教科書裏表紙	鑑賞	つながる造形 社会とかかわって	<p>「つながる造形」をテーマに、各学年に応じて、情景写真や授業写真などを掲載し、図画工作科からつながっていく、あるいは、広がっていく内容を掲載している。ここでは、「社会とかかわって」のサブタイトルで、教室・学校を飛び出して、新しいことやものを発見するたのしさや出会いを期待している。</p>	
--------	----	--------------------	--	--